

特別展 「妖怪見聞」

平成23年10月15日（土）～11月27日（日）



「泣不動縁起絵巻」狩野永納筆 京都市 清浄華院蔵

もののけ、あやかし、魑魅魍魎、異形のもの…いろいろな呼び方をされてきた妖怪たち。妖怪の伝承は人々の暮らしの中で、ごく自然なかたちで語り継がれてきました。自然と密接な関係を持って暮らしていた人々は、人知を超えた自然災害や日々の生活の中で説明のつかない現象に遭遇して不安な気持ちや恐怖心かられたときには、昔から語り伝えられてきた妖怪が不思議な出来事や災厄をひき起こしているのではないかと考えました。禍をもたらす妖怪を恐れ、忌避するために祀ったり、あるいは退治するという観念も生まれました。しかし、妖怪はただ忌み嫌われるだけの存在ではなく、時には信仰の対象ともなり祀られてもきました。

本展示では、日本の妖怪のイメージに影響を与えた文献や絵画を通して、人々の生活の中に姿を現した妖怪の歴史について探っていきます。また、山や海、河川に棲息するという鬼・人魚・河童・天狗にスポットをあて、それぞれの妖怪が出没した記録文献や記述されている妖怪の特徴、図像化された姿を紹介するとともに、日本の歴史や生活の中で人間がどのように妖怪を生み出し存在させてきたかについて探っていきます。さらに、茨城県内に残る伝説や民話、祭りや行事に登場する妖怪を取り上げ、時代とともに語り伝えられてきた人間と妖怪との関わりについても探っていきます。以下、主な内容を紹介します。

第1章 妖怪あらわる！…イメージされた妖怪の歴史…

自然がもたらす脅威に直面してきた人々は、自然の中に妖怪を見出し、文化が発達して器物が身近なものになると、その器物が妖怪化するという幻想を生み出し、社会や人間関係のしがらみに苦しむことが多くなると、人間の恨み・ねたみに関わる妖怪を繁殖させてきました。長い歴史の中で、これらの妖怪が語り継がれていくうちに、さまざまな妖怪に具体的な姿を与えたり、名前をつけてきたことで人々の間には共通の妖怪イメージが成立してきました。

ここでは、日本の妖怪のイメージに影響を与えた文献や絵画を通して、人々の生活の中に姿を現した妖怪の歴史について探っていきます。

第2章 妖怪出沒す！…伝承された妖怪の蹊跡…

古くから妖怪たちが棲息する場所は、人間の暮らす現実世界と隔絶したところとは考えられていませんでした。人間の生活空間から離れてはいますが、人跡未踏ではない山や海など、人間が踏み入ることができる自然と文化の中間領域、あるいは人間の生活空間周縁部に妖怪たちが棲息する場があるといわれてきました。また、異界と人間の生活空間とが接する不安定な「境界」に妖怪たちが潜んでいるともいわれ、その空間の向こうから妖怪たちがやって来て怪異に遭遇したという伝承も数多く残されています。

ここでは、全国的にも知られている山や海、河川に棲息するという鬼・人魚・河童・天狗にスポットをあて、それぞれの妖怪が出没した記録文献やその内容に記述されている妖怪の特徴、図像化された姿を紹介します。

第3章 いばらきに棲む妖怪…茨城の伝承にみる妖怪…

太古の昔より豊かな自然に恵まれた茨城は、奈良時代に編纂された『常陸国風土記』の中で「常世の国」と紹介されています。豊穰と生命力に充ちた理想郷といわれるところに暮らしてきた人々も、自然のなかに起こるさまざまな出来事や現象に精霊・霊魂といったモノの気配（モノノケ）を感じ、禍をもたらしモノは妖怪として恐れ、忌避するために祀ったり、あるいは退治するという観念を生じてきました。しかし、語り継がれてきた妖怪は、忌み嫌われるだけの存在ではなく、人間との関わりの中で信仰の対象ともなり、時には神の使い役や妖怪でありながら神ともなる不思議な存在となっています。

ここでは、茨城県内に残る伝説や民話、祭りや行事に登場する妖怪を取り上げ、時代とともに語り伝えられてきた人間と妖怪との関わりについて探っていきます。

終章 妖怪と幽霊…定義された異界のモノたち…

妖怪と幽霊は同じものと考えられていたり、妖怪と幽霊は違うものとも考えられていたりしていますが、一般的に日本の妖怪は、動物や草木が化けたものや人間が作り出した物が古びて変化したものといわれており、それに対して幽霊は、死んだ人間があたかも生きているかのように人間に似た姿で、あの世から立ち返ってきたものといわれています。しかし、このように妖怪と幽霊の区分がなされたのは明治以降のことで、それまで異形のモノ（天怪、魍魎魍魎、怨霊、物の怪、幽霊など）はすべて「ばけもの」と呼ばれていました。

ここでは、妖怪と幽霊について学術的、民俗的見解の一端を紹介するとともに、さまざまに定義されてきた異界のモノたちの概念について考えていきます。



「酒呑童子絵巻」巻6 茨城県立歴史館(一橋徳川家記念室)蔵

◇講演会

演題 「人間と妖怪の関わりを通して妖怪存在の意義を考える」

日時 平成23年11月6日（日）午後1時30分～3時30分

会場 茨城県立歴史館 講堂（要入館券）

講師 小松 和彦氏（国際日本文化研究センター教授）

定員 200名（先着順）＊午前9時30分から総合案内所で整理券を配布する

◇ミニ講座・展示会説

日時 平成23年10月22日（土）・29日（土）・11月19日（土）

各日午前11時，午後1時30分，各回約30分間

会場 茨城県立歴史館 講堂及び展示室（要入館券）

担当 首席研究員 飯塚 信久

◇妖怪映画鑑賞会

題名 「妖怪百物語」

日時 平成23年10月23日（日）午後2時～3時20分

会場 茨城県立歴史館 講堂

定員 200名（先着順）＊午前9時30分から総合案内所で整理券を配布する

◇妖怪かるたで遊ぼう！

日時 平成23年10月30日（日）午後1時30分～3時（午後2時30分まで受付）

会場 茨城県立歴史館 講堂

◇妖怪を探そう！ウォークラリー

日時 平成23年11月20日（日）午後1時30分～3時30分（午後2時30分まで受付）

会場 茨城県立歴史館内及び庭園